

はつらつ座安っ子



【学校だより: 令和4年9月 第9号】
豊見城市立座安小学校 校長: 具志直哉

なかよく かしこく たくましく

～主体的に他者と協働し、豊かな学び方を身に付け、夢や目標を持って粘り強く生きる子～

座安小学校の全職員は、子どもたち1人ひとりを認め、受け入れ、持っている「可能性を拓き伸ばす教育」の実践をめざし、全力でがんばります！

子どもが自らの意思と意欲で学び、友だちとそして先生とも学び合うことで、じんぶな～（賢く）になっていく！

「教え上手」から「学ばせ上手」へ、「教師が教える授業」から「子どもが自ら学ぶ授業」「教師や仲間と共に学ぶ授業」づくりへ。本校教職員の意識も、そして授業したいが着実に変化しています。

なぜなら、これからの時代をより良く生きていくためには、知識や技能を豊富に持つ以上に知識を問題解決にうまく活用できる力、素直で従順である以上に、他者を尊重しつつも自分の考えをしっかりと主張できる力などが必要になってくるからです。従って学校の授業も先生から一方的に、受け身に指導されるより、自分で、仲間とともに、学び合う授業になっていくことは必然だと言えます。



本校は「子どもが創る授業」をめざしています。

「子どもが創る授業」に取り組んだのは令和3年度から。今年度は沖縄県研究指定校「授業改善」を受け、東京から著名な西留安雄氏を本校に3度お招きし、日々「子どもが創る授業」づくりに邁進しています。「子どもが創る授業」とは、児童が交代で「学習リーダー」として教師役を務め、子ども達だけで学んでいく授業です。極端に言うとも、教師の出番は5～10分、残りの40～35分は子ども達が思考し対話し協議しまとめていく時間となります。教師の主な仕事はファシリテート、子ども達の学びを見守り、確かめ、認め、必要なときに助け船を出したりします。授業の最後にはこの授業で身につけさせたい力をまとめ、子ども達とともに確かめ合います。

今週（9月12日）月曜日は、早朝から西留先生が来校し、1～5校時、そして放課後の講話、演習と、子ども達や本校の教職員へ多くの学びをご教示下さいました。



倒木した百年ガジュマルを今後につなげる

12日（月）に百年ガジュマルの伐採作業がありました。写真で紹介します。



⑦が現在の百年ガジュマル、切り株となりました。シロアリ等が発生しないよう、薬品を塗ってくれています。⑧再生のための元気な枝が6本確保できました。来年の吉日に、場所を決めて植樹する予定です。百年ガジュマルの6本の子どもたちが、座安小学校の運動場や校庭で、百年の歴史を引き継いでいきます。左側の大木は百年ガジュマルの切り株。オブジェにしていきます。他の枝葉も、何か工作などで作成することができないか検討中です。プールの下に保管してあります。歴代のPTA会長、卒業生、園芸の専門の方等雄志の方々のおかげで、百年ガジュマルが未来へとつながっていくようです。それは子ども達や保護者、地域の方々、教職員や関係者各位の座安小学校に対する心温まる思いのつながりでもあります。